様式３－２

令和2年1月16日

令和元年度　結果の分析及び今後の改善策（案）

（ 中間 ・ 最終 ）

両城中学校区　校番１９　学校名　呉市立両城小学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（1年間）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★ 確かな学力の向上	貫 確かな知識・技能の習得と，活用力（思考力・判断力・表現力）を身に付けた児童の育成を図る。	主体的に問題解決に取り組む児童の育成を図る。	・「まとめ」と「ふり返り」を混同している児童がいたことが課題となっていたが，「まとめ」では，その時間のめあてに対して何が分かったのかを記述させることを徹底した。「ふり返り」に，自分の考えの変容を書くことができている児童は83%だった。 ・思考の流れが見えるノートを紹介したり，算数用語を掲示したり，タブレットを活用して考えの交流をしたりすることを通して，自分の考えを表現しやすくした。また，他の児童の考えを自分の言葉で言い換えさせることで，考えを「広げる」ことができた。しかし，説明をさせるが，練り上げて「深める」ところまでいかなかった。 ・「数学的な考え方」を問う問題の正答率が８０%を超える児童が低学年は88%，中・高学年は44%であった。上の学年になるほど，問題を把握し，考え判断する力に課題がある。	・問題を把握し考えをもつことに時間を要し，思考を深めるところまで至っていないので，予習を勧めるようにする。事前に教科書を読み，問題を把握したり，自分の考えをもたせたりすることで，授業において考えを深める時間を充実させる。また，考えを深める授業をしたときのゴールイメージや，到達させたい考えを明確にもって指導する。 ・「数学的な考え方」を問う問題は，知識や技能を活用して解く問題であり，個人差が大きいため，適切な指標を立てるようにする。
★ 豊かな心の育成	貫 自他を大切にして共に高まり合う児童の育成を図る。	学校生活をよりよくするために，相手を思いやり，気づき・考え・行動できる児童の育成を図る。	・たてわり班活動を楽しみにしている児童の割合は低学年児童９４%，高学年児童９２%であった。上半期に比べ低学年児童の割合が８７%から９４%へと上がった。たてわり班の仲間との交流が深まり，仲良く活動できていること，両小タイムでの遊びを決定する際，低学年児童の意見を取り入れる手立てを行ったことが要因として考えられる。 ・生活目標に対する具体的な行動を考える取組が定着してきた。そのため，生活目標のふりかえりの達成率は７６%から８２%へと上がった。しかし，月の中頃に意欲が低下する傾向が見受けられる。個人用ふりかえりカードの改善を図る必要がある。	・両小タイムにおける遊びの決め方に低学年児童の意見を取り入れる手立てを導入したことで低学年児童の意欲を高めることができた。来年度にむけて，6年生のリーダーを中心として，それぞれの学年に役割をもたせることができるようなシステム作りを行う必要がある。 ・生活目標達成にむけて，クラスのふりかえりカードと共に個人用のふりかえりカードの充実を図っていく。
★★ 健やかな体の育成	体力向上と健康増進の意欲を高める。	体力つくりと健康増進の場の設定と充実を図る。	・５０m走の記録が県平均（R1）を上回っている児童の割合は，全校で７１%であった。前期の６０%からは割合が増加したが，学年別で見ると２～５年生の結果に課題が残った。 ・にこにこカードを使った生活点検活動での早寝の目標は８０%以上を目指した。１回目は，６９．４%で，２回目は６５．９%であった。どの学年も８０%以上にはならなかった。また，前回と同じく低学年の達成率が低かった。継続的に基本生活習慣の取組を行っていく。	・「くれ・チャレンジマッチ・スタジアム」を活用して，「ダッシュリレー」などの走力を高める種目に各学年で積極的に取り組む等，体育科の授業改善を図る。また，休み時間の外遊びを徹底させるなど，体を動かす習慣を身につけさせる。 ・にこにこカードの取組を強化するために，担任から各家庭に早寝の声かけをする。３学期に向けて，「めざせ金メダル！」の取組を継続しながら基本的生活習慣改善の意識を高めていく。

業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	児童生徒と向き合う時間の確保 長時間勤務の削減	・今期も，行事の精選・業間や帯タイムの見直し及び成績処理時期の日課を水曜日課にする等の工夫をした。結果，在庁時間月80時間以上の教職員は引き続き0名であった。また，児童と向き合う時間が確保されていると感じる教員は44%から67%に増加した。まだまだ多忙感はあるものの，少しずつではあるが取組の効果が出てきていると感じている。	・引き続き，行事の見直しと時間確保の工夫を続ける。